



2018年12月7日

アウディ、投資プログラムを再編

- 2023年末までに、eモビリティ、デジタル化、自動運転のために約140億ユーロを先行投資
- 「アウディは、体系的にeモビリティへの移行を進め、将来性のある事業分野を常に優先している」
(ブラム ショット：暫定CEO)
- アウディ トランスフォーメーション プランによって巨額の先行投資による負担を軽減

2018年12月4日、インゴルシュタット：アウディグループは、将来性のある事業分野に巨費を投じて、再編を加速しています。アウディは、2019年から2023年末だけでも、eモビリティ、デジタル化、自動運転のために約140億ユーロを先行投資することを計画しています。これには工場など有形固定資産への投資ならびに研究開発費が含まれています。全体として、今後5年間の計画期間における総投資額は、約400億ユーロに達します。

AUDI AG 暫定取締役会会長のブラム・ショットは、次のように述べています。「この計画ラウンドでは、明確な目標を定めています。私たちは、eモビリティに対して非常に体系的なアプローチを採っており、将来的にはよりフォーカスしていく見込みです。非常に魅力的で市場のニーズを満たす未来志向の製品、およびサービスの実現を、常に優先させます。最近発表されたAudi e-tron GT conceptをはじめとするモデルによって、私たちは、アウディの電動化を促進すると同時に、機敏な行動力と高い効率を備えた企業になることを目指しています」

アウディは、ブランド初のSUV電気自動車であるAudi e-tronを皮切りに、今後数年間に数多くの電気自動車を発売する予定です。2025年までには、約20の電動化モデルを提供し、そのうちの約半数は、純粋な電気自動車になる予定です。同時に、アウディは自動車及び工場のデジタル化を進めており、たとえば「オンデマンドでの機能追加」といった新しいデジタルサービスによるビジネスモデルも拡大します。

そのため、将来性のある事業分野に対する総投資額の割合は、計画期間にわたって大幅に増加する予定です。特に計画期間の後半においては、グループの相乗効果を高めるクロスブランドアーキテクチャーに基づいた電動化モデルの生産台数拡大があり、今回承認された先行投資額はそれも視野に入れたものとなっています。この目的のため、アウディはポルシェと協力して大型電気自動車用のプレミアムアーキテクチャーエレクトリフィケーション(PPE)を開発する一方で、フォルクスワーゲンとともに開発を進めていたモジュラーエレクトリックドライブキット(MEB)を完成させています。

アウディは、未来に向けたこれらの投資を自己資金で賄うため、アウディ トランスフォーメーションプランを体系的に導入しています。このプログラムにより、アウディは2018年に既に10億ユーロ以上のプラスの収益効果を生み出し、巨額の先行投資に対する財務負担を補っています。アウディ トランスフォーメーション プランは、未来の事業分野にリソースを移行することに加え、主に、組織の複雑さを整理し、体系的に相乗効果を生み出すことを目指し、お客様のニーズを満たさない活動を特定して中止することも目的としています。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。